

令和3年度鹿児島県がん診療連携協議会議事要旨

1. 日 時：令和3年11月17日（水） 15：00～16：10

2. 会議形式 オンライン（Zoom）会議

3. 開会挨拶

上野センター長より、開会に先立ち挨拶があり、続いて21施設の連携病院から現状報告があった。また、鹿児島県くらし保健福祉部健康増進課の亀之園課長より挨拶があった。

4. 議題等

○「がん登録部門」

永吉診療情報管理士より、【資料2-3】により第12回がん登録部会の報告、2019年症例登録件数の報告、部門別研修会の活動報告があった。

○「がん相談・連携部門」

川窪看護師より、【資料1-2】により第14回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会からの報告、【資料2-1】により鹿児島県がん相談支援部門会からの報告があった。

○「がん緩和医療部門」

永田看護師長より、【資料1-3】により第8回緩和ケア部会の報告、【資料2-2】により鹿児島県緩和ケア部門の報告があった。

○「化学療法部門」

鈴木副センター長より、【資料2-4】により説明があった。化学療法室の運営状況について説明があり、年々増加傾向であり、今年度は5,000件を超える予測になっているとの発言があった。また、がん遺伝子パネル検査は年間99症例となっているとの報告があり、主流としては、FoundationOneによる検査が多くなっているとの発言があった。

○その他

・「NPO法人がんサポートかごしま」からの情報提供

三好理事長より、【資料3】により、「ウィッグ購入費用助成」や「離島からの旅費助成」の案内があった。また、がん患者サロンの開催状況について情報提供があった。

参加者から、「助成金については1人1か月1回か」との質問があり、三好理事長より、1人1回の助成であり、「離島からの旅費助成」については、「居住する離島以外の医療機関での治療が必要と主治医が認めた方のみ助成である」との発言があった。